

パッケージ型固定泡消火設備 取扱い説明書

機種 S B F - 1 1 0 E - 4
 S B F - 1 1 0 E - 4 C (寒冷地仕様)

この度は、ミヤタのセルフ向けパッケージ型固定泡消火設備を設置して頂き、有難う御座います。本消火設備の取扱いにつきましては、取扱い説明書をよくお読みの上、正しいご理解と取扱いをお願い申し上げます。
この取扱い説明書は、大切に保管してください。



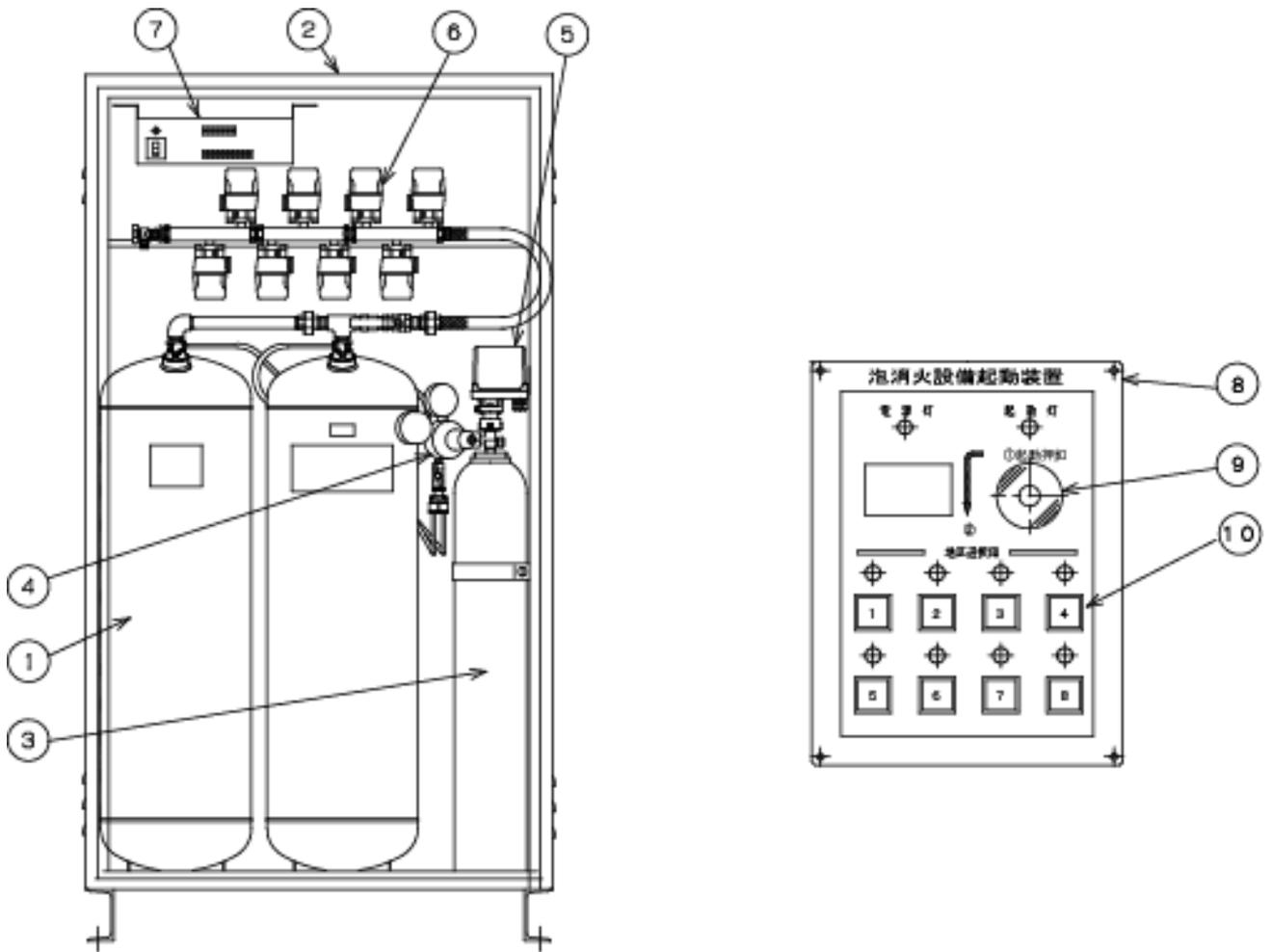
モリタ宮田工業 株式会社

目次

各部の名称	・・・・・・・・・・	1
操作方法	・・・・・・・・・・	2
使用後の注意事項	・・・・・・・・・・	3
日常点検	・・・・・・・・・・	4
薬剤放射後の復旧操作	・・・・・・・・・・	5~6
バルブ開放装置着脱方法	・・・・・・・・・・	7
点検・総合点検	・・・・・・・・・・	8

パッケージ型固定泡消火設備

各部の名称



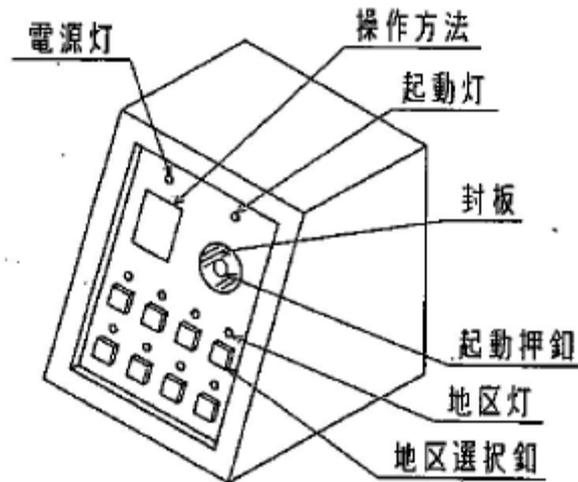
番号	名称
1	消火剤貯蔵容器
2	格納箱
3	加圧用ガス容器
4	圧力調整器
5	バルブ開放装置
6	地区選択弁
7	制御部
8	起動装置
9	起動押ボタン
10	地区選択ボタン

操作方法

起動装置による押釦起動（SSC連動の場合はSSCの取扱説明書参照）

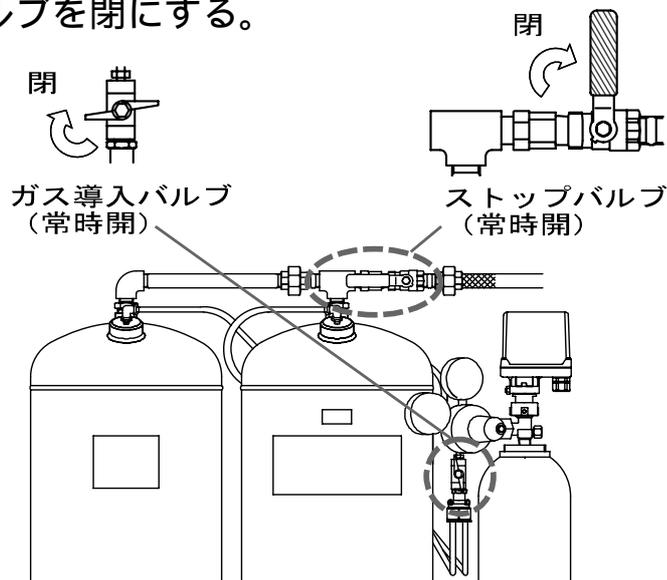
1. 目視にて火災発生場所（対象レーン）を確認する。
2. 起動押釦を封板の上から強く押す。
（起動灯が点灯する。約1分間点灯）
3. 対象地区釦を押す。
（起動灯の点灯中に地区釦を押すと、地区灯が点灯し対象地区へ消火剤が放出されます。尚、地区釦を押してから1分以内は地区の変更は可能です。地区釦を押しなおして下さい。）

注意：起動灯が点灯している間（約1分）に地区釦を押してください。
万一、起動灯が消灯したら再び起動釦を押して、起動灯が点灯してから地区釦を押して下さい。



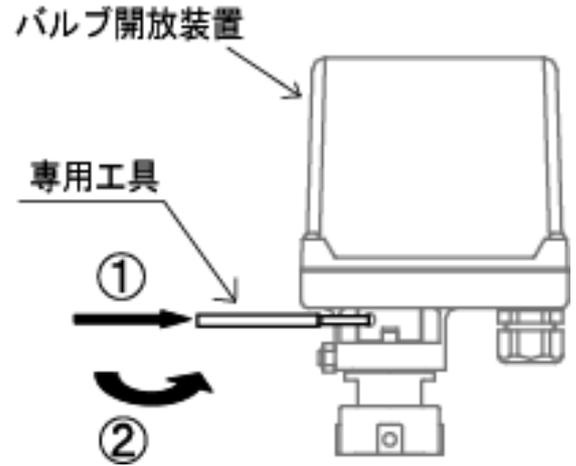
放射停止

1. 消火薬剤の放射を途中で停止させる時は、格納箱内のストップバルブを閉にすると放射は停止します。
2. ガス導入バルブを閉にする。



手動起動（停電時等）

1. バルブ開放装置の手动操作用穴に付属の専用工具を差し込み左から右へ廻し切る。
二回繰り返して「O」マークが矢印の場所にくるまで廻す。

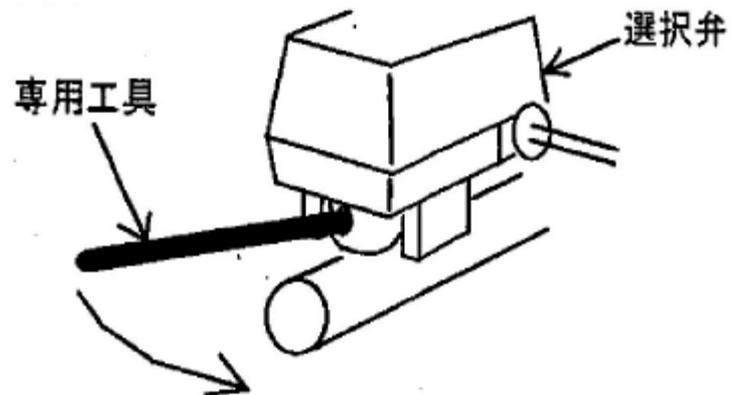


注意：必ず全開にして下さい。開角度が少ないと規定のノズル圧が得られず消火出来ない場合があります。

2. 火災発生場所を確認し対象地区選択弁を開ける。

* 注意 *

専用工具は先端が細くなっている方を差し込んで下さい。



使用後の注意事項

1. 放射後の薬剤処理

泡薬剤は無害です。 水で良く洗い流して下さい。

注意：万一薬剤が目に入ったら水で良く洗い流し、念の為病院で診察を受けてください

2. 放射後の消火設備の整備

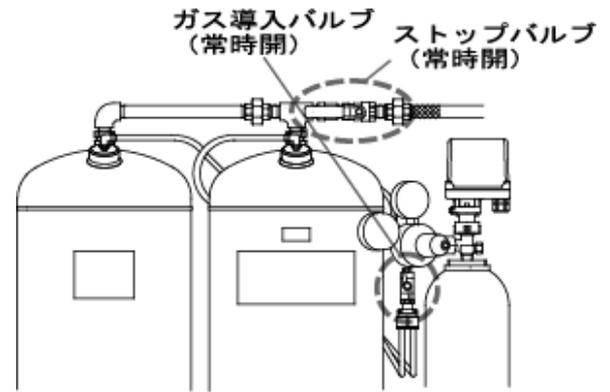
使用後の消火設備は、そのまま放置することなく必ず最寄の弊社営業所に復旧作業をご依頼下さい。もしこの操作を怠りますと消火設備の故障の原因となりますのでご注意下さい。

警告：使用後の消火設備の復旧作業は消防法により資格が必要です。不用意に操作すると危険です。

日常点検

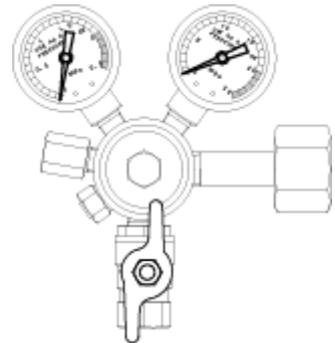
1. 消火設備本体部

各バルブが正常位置であること。
ガス導入バルブ・・・開
ストップバルブ・・・開



2. 圧力調整器

一次圧力計指針・・・0 MPa
二次圧力計指針・・・0 MPa

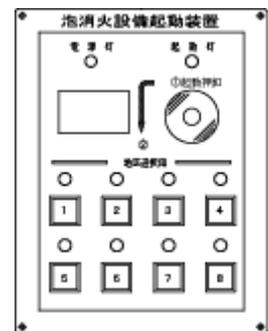


3. 制御部 (パッケージ内上部に設置)

電源灯・・・点灯

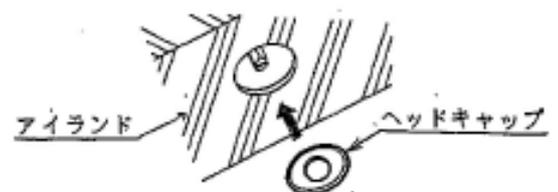
4. 起動装置 (押釦)

電源灯・・・点灯
封板・・・破れていないこと



5. 泡ヘッド

ヘッドキャップが確実にセットされていること。
ヘッド近くに放射の際に障害になる物がないこと。



注意：各機器が正常に設定されていない場合は、消火設備が正しく作動しないので日常の点検を行って下さい。

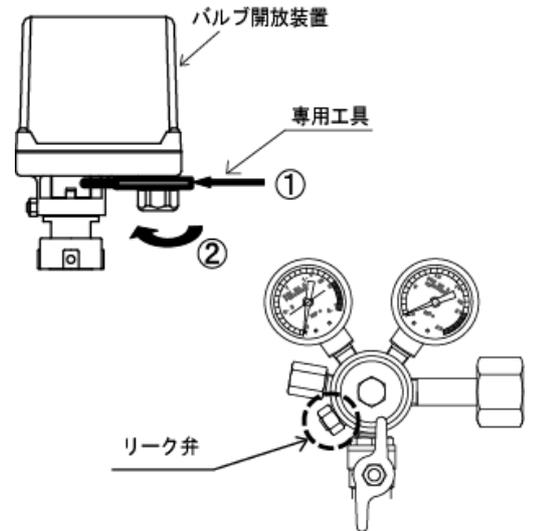
薬剤放射後の復旧操作

注意：以降の操作は消防法により資格（消防設備士）が必要です。

1. 排気操作

警告：薬剤放射途中で停止をかけた場合、タンク内に窒素ガスが残留しています。この状態で薬剤充填蓋を外すことは危険です。必ずタンク内の残留ガスを排気してください。

- (1) バルブ開放装置に付属の専用工具を差込み右から左に廻す。
二回繰返し、「S」マークが矢印の場所に来ることを確認する。
- (2) 圧力調整器のリーク弁を押す。
この時ガス導入バルブは開にしガスの排出音が無くなるまで押し続ける。



注意：途中で停止することなく全量放射した場合はタンク内にガスは残留していませんが、念の為上記操作を実施してください。

2. 復旧操作

(1) 窒素ガスポンベの交換

圧力調整器の指針が「0」である事を確認する。

ガス導入バルブを閉める。

ナイロンチューブ及びバルブ開放装置への結線のコネクタを外す。

ポンベ締付けバンドを外しポンベを取り外す。

圧力調整器を取り外す。

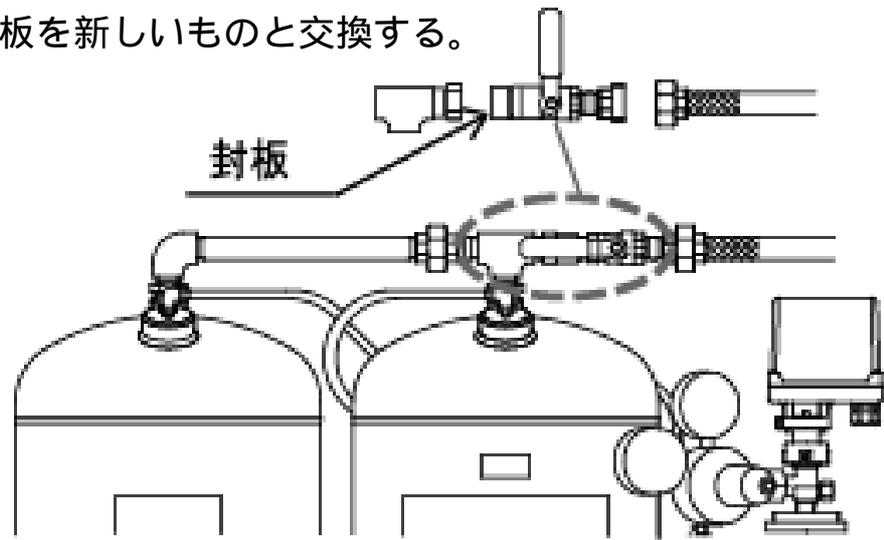
バルブ開放装置の取付け衤を緩め上方向へ取り外す。

(* 7 ページのバルブ開放装置着脱方法を参照して下さい。)

新しいポンベと交換する。

(2) 封板の交換

使用済みの封板を新しいものと交換する。



(3) 泡消火薬剤の充填

薬剤充填蓋を開け、指定薬剤を規定量充填する。

* 指定薬剤・・・消火器用機械泡(薬第27-5号)

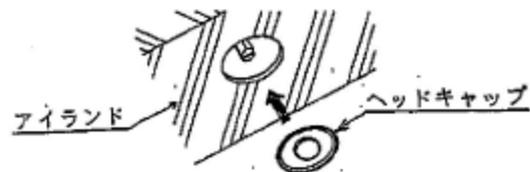
消火器用機械泡(薬第27-4号) <寒冷地仕様>

* 規定量・・・55L/1本×2(合計110L)

薬剤充填後は充填蓋を確実に締め付けて下さい。

(4) 薬剤放射ヘッド部の復旧

薬剤放射後は放射区画配管内に薬剤が残留していますので、充分フラッシングした後ヘッドカバーを嵌め込んで下さい。



(5) 制御部の電源を入れる。

制御部の電源を入れると、制御部及び起動装置(押釦)の電源灯が点灯します。

(6) 再確認

復旧作業後は日常点検に従い、各バルブ類の位置、及び電源灯が点灯している事を確認してから最後にガス導入バルブを開けて下さい。

ガス導入バルブ・・・開

ストップバルブ・・・開

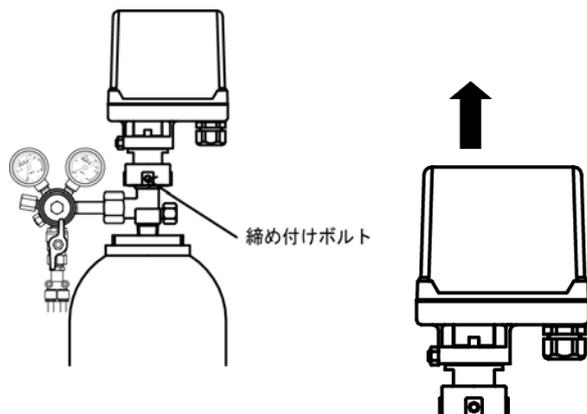
制御部電源灯・・・点灯

起動装置電源灯・・・点灯

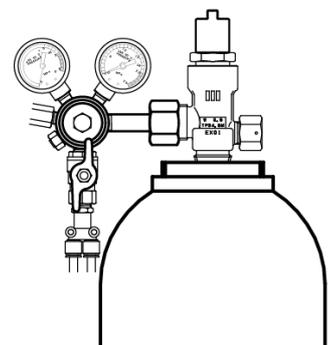
バルブ開放装置着脱方法

1. バルブ開放装置の外し方

締め付けボルトを緩める。(3箇所)



上方向へ引き上げて外す。



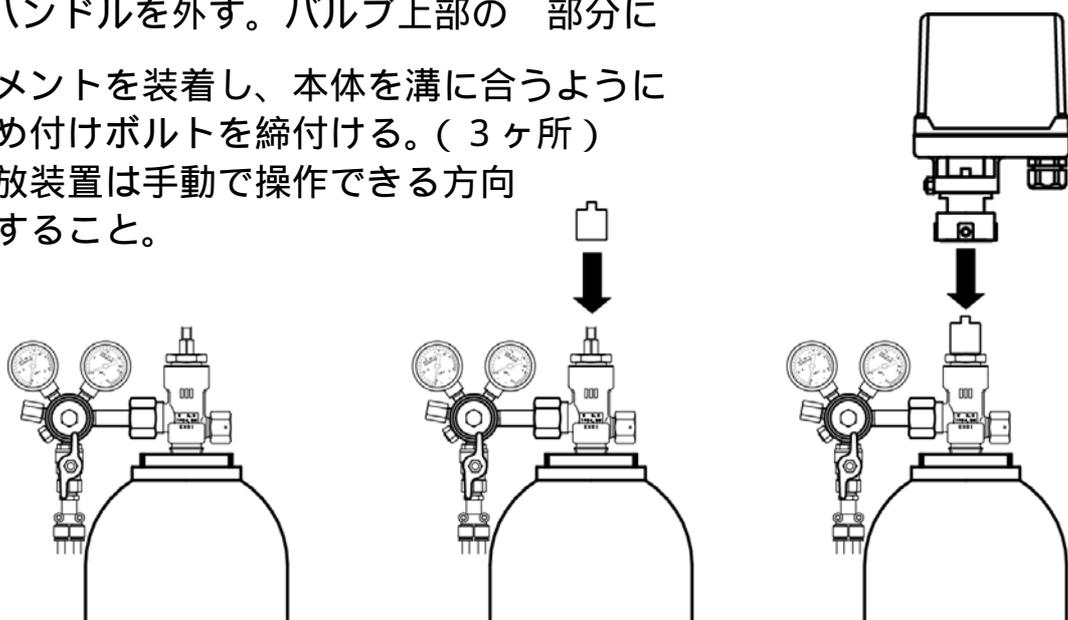
2. バルブ開放装置の取付け方

注意：セットする前にバルブ開放装置が閉位置（排気操作 参照）であることを確認してください。

新しいボンベに圧力調整器を取付ける。

バルブハンドルを外す。バルブ上部の 部分に
アタッチメントを装着し、本体を溝に合うように
装着し締め付けボルトを締め付ける。(3ヶ所)

*バルブ開放装置は手動で操作できる方向
にセットすること。



注意：バルブ開放装置が正しくセットされていないと、正常に動作しない場合があります。

機能点検

1.加圧用窒素ガス容器の内圧測定

ガス導入バルブを閉める。

加圧用窒素ガス容器のバルブ開放装置に付属の専用工具を差し込み左から右へ廻し切る。

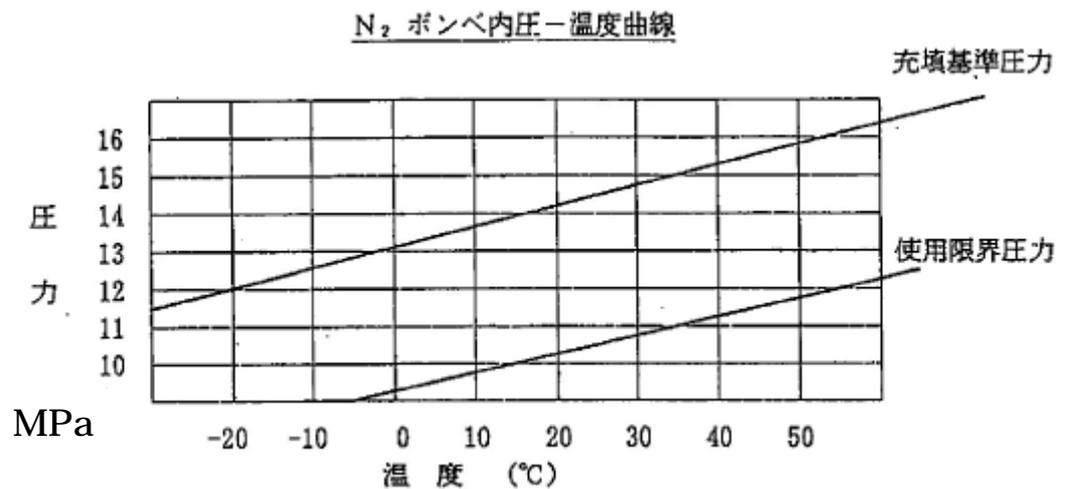
二回繰り返し「O」マークが矢印の場所にくるまで廻す。

この測定で、一次圧（高圧側）の指針が下図の使用限界圧力以下の場合には新しいボンベと交換するか、再充填を行って下さい。

測定終了後は の要領で右から左に二回廻しきる。

「S」マークが矢印の場所にある事を確認し、圧力調整器のリーク弁を押しして窒素ガスを完全に排気してください。

ガス導入バルブを開ける。



総合点検

A . 泡消火薬剤を放射することなく各機器の動作を確認する場合。

ガス導入バルブ、及びストップバルブを閉める。

前記「起動操作」の要領により任意の地区の起動押釦を押すと、窒素ボンベバルブが開放し対象地区選択弁が開となります。

上記操作確認後は機能点検と同様にして復旧して下さい。

* 地区選択弁は制御部電源を「OFF」にしてから、再度「ON」にすると自動的に閉となります。

B . 泡消火薬剤・水又はガスを放射し各機器の動作を確認する場合。

「固定泡消火設備点検要領書」を参照してください。